

キャリアデザイン学研究科

【2024 年度大学評価総評】

年 3 回と十分な回数の修士論文検討会を開催し、研究の進捗状況の把握と助言を行っている。進学相談会をシンポジウムと合わせて実施しているのは、良い工夫である。社会人大学院だが筆記試験を課しており、また合格者の質について教員間でフィードバックして検討しているのも、優れた取り組みである。大学院の授業を複数教員で担当するという試みは興味深く、また、小規模部局として学部と大学院双方を担っていくことの負荷を十分に考慮した運営の試みである。2024 年度からは、大学院教授会の議事録を学部教授会でも共有するとともに、学部・研究科双方の執行部による定例的なミーティングを開催予定であるなど、学部と大学院の連携強化を図っている。

修了生の研究成果発表を支援していることは、高度職業人を養成する社会人大学院であるというアイデンティティと深く関連していることがわかる。

全体としてみて、大学院教育の評価、改善の仕組みが高水準で安定しており評価できる。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①研究科（専攻）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②研究科（専攻）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
大学院 HP https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/yoken/	

基準 2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①研究科において、研究科長及び教授会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②研究科において質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
「法政大学大学院キャリアデザイン学研究科研究倫理委員会規程」、「キャリアデザイン学研究科教員負担に関する規定」等 2023 年度第 1 回 キャリアデザイン学研究科教授会 議事録 2023 年度第 11 回 キャリアデザイン学研究科教授会 議事録 2023・2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告	

基準 3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
ディプロマ・ポリシー https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/gakui_juyo/daigaku_in/#a14	
カリキュラム・ポリシー https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyoiku_katei/daigaku_in/#a14	
カリキュラム・ツリー https://www.hosei.ac.jp/application/files/6316/9631/5436/curriculumtree.pdf	
カリキュラム・マップ https://www.hosei.ac.jp/application/files/2015/7440/7876/2019_career_curriculum_map.pdf	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学大学院学則」第15条（「単位」）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
キャリアデザイン学研究科新入生オリエンテーション資料 修了要件・履修案内・時間割・シラバス https://www.hosei.ac.jp/gs/jukensei/yoken/	
キャリアデザイン学専攻 履修案内 https://www.hosei.ac.jp/application/files/1217/1037/9848/15_2024-CD.pdf	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る	はい

措置を行っていますか。	
4.3⑤シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑥授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
4.3⑦研究指導計画（研究指導の内容及び方法、年間スケジュール）を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	はい
4.3⑧研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
キャリアデザイン学研究科新入生オリエンテーション資料 2023年度第2回キャリアデザイン学研究科教授会（2023.5.19）議事録・2023年度第6回キャリアデザイン学研究科教授会（2023.10.27）議事録 ※授業に関する意見交換 研究指導計画 https://www.hosei.ac.jp/application/files/8415/7440/7953/2019_13_career_kenkyu.pdf	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学大学院学則」第20条の2（入学前既修得単位の認定）に基づき既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学大学院学則」第22条（修了要件）、第26条（修了要件）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位論文審査基準を定め、文章等によって予め学生に明示し公表していますか。	はい
4.4⑥学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑦ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
キャリアデザイン学研究科新入生オリエンテーション資料 学位論文審査基準 https://www.hosei.ac.jp/application/files/2215/7440/7981/2019_13_career_gakui.pdf	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②修了生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
【具体的な活用事例】	
授業改善アンケートおよび修了生アンケートの結果を教授会で共有し、その後サイボウズ上でも共有して内容を確認いただくとともに、意見を募った。修了生アンケートについては研究科に関する自由記述も共有し、研究科の在り方に関する議論の参考にした。	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①修士課程・博士課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい

5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
アドミッション・ポリシー https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/ukeire_hoshin/daigaku_in/#a13	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】研究科・専攻における収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
2024年度入学16名（充足率0.80）。	

表1

研究科・専攻における収容定員充足率	修士課程	0.50以上2.00未満
	博士課程	0.33以上2.00未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①研究科の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
キャリアデザイン学研究科新生オリエンテーション資料 修士論文構想発表会・修士論文中間構想発表会・修士論文中間発表会・口述試験のプログラム	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
担当教員の担当基準と選考に関する規定	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい

7.1④ ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
キャリアデザイン学研究科新入生オリエンテーション資料	

基準 8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
キャリアデザイン学研究科新入生オリエンテーション資料 研究倫理教育のご案内 https://www.hosei.ac.jp/application/files/4116/4481/7571/R_leaflet_ForResponsibleResearchActivities.pdf elCoRE Web サイト https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx	

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
大学院シンポジウム「リカレント教育の今日的課題 ―社会経済的観点と個人のウェルビーイングの観点から―」（2023年10月）の案内 https://www.hosei.ac.jp/gs/careerdesign/info/article-20230719081012/ 法政大学キャリアデザイン学会・研究会、「質的研究の分析方法の一例として～修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）の解説」（2024年2月）の案内（学外参加者も受け入れ） https://cdgakkai.ws.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2023/12/2023-12.pdf 日本キャリアデザイン学会・第19回研究大会プログラム（2023年9月、修了生等による発表） https://career-design.org/img/conference/19th_presentationlist.pdf	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2023 年度大学評価結果総評】（参考）

キャリアデザイン学研究科では、学部と大学院の人員、負荷のバランスを考慮しつつ、カリキュラム全体（基礎・共通科目、プログラム科目、演習）、授業、指導方法等についての見直しが進められており、2023年度は、授業分担の見直しの試行についての検証や次年度以降の施策の推進展開についての判断を行い、施策を推進する場合にはその準備を進めることが、重点目標を達成するための施策等として位置付けられており、今後の取組の着実な進展が期待される。

また、同研究科の教育課程・教育内容の特色でもある法政大学キャリアデザイン学会を独自に開催し、広く学外にも公開しキャリア関連の研究者、実務家など先端的な研究業績を有する研究者等を講演者に招聘し、学会活動を積極的に推進し研究教育の水準の維持向上に取り組んでいることは高く評価される。

更に、2022年度の年3回の修士論文検討会では初回のハイブリッドに続き2・3回目はオンラインで実施したところ発表や質疑に支障をきたすこともなく発表・質疑とも十分に行えたということで、また、シンポジウムもオンラインで実施したことで会場の制約がなく開催時間や参加者数を柔軟に設定することができたということであり、原則的には今後もオンラインでの実施が表明されており、コロナ禍が落ち着いてきた後も効果的なオンラインの継続的な活用が如何になされていくのかも注目される。

【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

学部と大学院の人員、負荷バランスについては、2023年度の試行結果を踏まえ、取り組みを継続するとともに、2024年度も2人体制の授業を追加する。

また、2024年度においては、学部と大学院の情報共有を一層強化する観点から、大学院教授会の議事を、学部教授会でも資料として共有のうえ説明する取組をスタートし、学部執行部と大学院執行部による定例的なミーティングの機会も設定する。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5③学習成果を測定するために設定した指標は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5④学習成果を測定するために設定した指標に基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の	S. さらに改善した又は新たに取り組んだ	A（概ね従来通り

主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	である又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準 5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準 6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①研究科内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②研究科内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。		

Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。

Ⅲ 2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性深化の継続と浸透。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学部との人員、負荷のバランスを考慮しつつ、カリキュラム全体（基礎・共通科目、プログラム科目、演習）、授業、指導方法等についての見直しを行い、兼任講師を活用した授業分担の試行を行う。 ・eLCore を活用した研究倫理教育を徹底する。 ・「学生による授業改善アンケート」などを精査して、授業の質と教育効果を検証する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業分担の試行の検証をし、今後の推進の方向について判断する。修論指導体制、修了要件等については一定の進展を見たが、引き続き検討を進める ・今年度も引き続き、アンケート等によりカリキュラムの運用状況の把握、問題の発見を行う。 ・研究倫理教育に関しては、次年度に演習を履修する修士1年生 eLCore 修了率 100% を目標とする。 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	この数年来、大学院教育の質を維持しつつ、学部との教員負担のバランスを取る観点から、修論指導・評価基準、授業負荷についての検討を行った。それを踏まえて非常勤講師の有効な導入も取り入れ、授業の質、内容の広がり担保しつつ専任教員の労力を学部に戻す程度が可能になった。アンケートで目立った不満や苦情はなかった。研究倫理教育に関しては、対象者の eLCore 修了率 100% を達成した。
	改善策	授業の回数を非常勤講師と分担する際に、初回に十分なガイダンスがあった方が良いとの院生の声も反映させていきたい。24年度は分担授業をさらにもう1ワク増やしている。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	修論指導体制および評価基準の見直しは、研究科での大学院生の研究活動の実情を反映させた点で評価できると言える。また授業形態の改善（担当教員・回数）にも積極的に取り組んでおり、かねてからの懸案であった大学院から学部への授業負担の移行も進んでいる。アンケート結果および研究倫理教育の受講状況も良好である点も評価できる。
改善のための提言	非常勤講師を含む複数教員が担当する授業形態の広がりに応じた授業ガイダンス等継続的な改善および質保証を目的とした教育効果の検討がなされることが望ましい。	
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	より一層の教育研究指導方法の向上を図る。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、シラバス通りの授業実施の徹底と、マンツーマンでの修士論文指導体制を原則として進める。 ・学部／大学院の人員・負荷バランスも考慮した授業分担の試行を検証する。 ・また年3回の修論発表会を実施し、対処すべき課題が生じた際には迅速かつ適切に対応する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生の研究計画に基づいて修士論文指導教員を適切に配置し、ミスマッチがないように指導体制を確立する。 ・授業上で対処すべき課題は授業アンケート等で把握し、適宜、研究科内での情報共有と対応を行う。 	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	教員配置のミスマッチや不十分な指導などの問題は発生していない。発表会は4月はハイブリッド、9月・11月は原則的にオンラインで実施した。

報告	改善策	マンツーマン指導に対する院生の満足度は高いが、長期履修や留年により演習の履修者数が年ごとに変動するため、マンツーマン体制を原則とすると年により各教員の授業担当コマ数に過不足が発生しうる。長期履修を積極的には勧めない、2年のできるだけ早期に当該年度での修論提出予定者の把握を行う等の対応をしている。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	修論指導体制、特にマンツーマンを原則とした指導体制を継続できていることは高く評価できる。今年度も長期履修等による院生数の変動があったものの教員とのマッチングが適切になされていた。ハイブリッド・オンライン等の継続活用により効率的な研究科の運営がなされていた。これらの点も評価できる。
	改善のための提言	長期履修制度に関しては継続的な検討が必要である。
評価基準		教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標		修了生の学会発表、学会誌への投稿等の継続的促進を図る。 研究科修了生のレベルの維持・向上を図り、高度職業人養成機関としての本研究科の社会的地位の継続的な向上を図る。
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> ・大学院生の学習状況を把握し、十分な学習成果を出せるよう支援する。 ・また、修了生のうち優れた研究を行った者については学会での研究発表、学会誌への論文投稿等の促進を継続するとともに、修了生の研究成果の実務界への還元も推奨、促進する。 ・研究生への指導内容等についても教員間で情報共有し指導のさらなる充実を図る。
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の修士論文検討会等において、研究の進捗状況の把握と助言を行い、研究水準を理由とする修了試験不合格者の発生を防ぐ。 ・また、学会発表、論文発表その他研究成果の社会還元の実績に関する情報を研究科内で共有し、出版物、Webサイト、シンポジウム、セミナー等で広く公表する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	年3回の修士論文検討会は初回はハイブリッド、第2回と第3回はオンラインで実施した。発表や質疑に支障をきたすこともなく、発表・質疑とも十分に行えた。
	改善策	修士論文検討会やシンポジウムをオンラインで実施したことにより、会場の制約がなく、開催時間や参加者数を柔軟に設定することができた。原則的には今後もオンラインでの実施を行う。 修了生の研究成果は研究科Webサイトに掲載し、シンポジウムに併せて実施している進学相談会で広報している。今年度の実績に関する情報を集約し、掲載内容を更新する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	オンラインを活用した効率的かつ効果的な研究科運営がなされている点が評価できる。研究成果の公表や研究科の広報についても継続的に実施されている点が評価できる。
	改善のための提言	社会人である本研究科の大学院生および指導教員のニーズに沿った形で積極的にハイブリッド・オンライン等が活用されることが望ましい。
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		学生募集はホームページ、募集要項、進学相談会、大学院シンポジウム、研究計画書説明会など、あらゆる機会を通して入学志願者に詳しい入試情報を提供してきており、このような取り組みをいっそう充実させる。
年度目標		2020年度はコロナ禍対応により、筆記試験を実施しなかったが、2021年度以降は従来どおりに実施し、口述試験と書類選考に加え、筆記試験を組み込んだ多面的内容とした。今年度もこのような多面的内容で実施する。その上で、定員充足率100%を目標とする。ただし、合格基準点を下げることなく、質を厳しく担保しつつ、従来通り、定員充足率を適正に管理していく。
達成指標		定員充足率100%を目標とする。ただし、合格基準点を安易に下げることせず、書類選考・筆記試験・口述試験による研究遂行能力の評価に基づいて厳格に入学者を選抜し、質の高い教育の確保・担保に努める。

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> 書類選考・筆記試験・口述試験による多面的内容から、合格基準点を下げることなく、例年通り入学者を厳格に選抜することができた。入学選抜試験において、全教員が過程のいずれかで関わり、受け入れ方針に基づいて公正な入試を実施することができた。 学生募集に関して、ホームページ、募集要項、大学院進学相談会、シンポジウム、研究計画書説明会等を通して実施することができた。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も合格者の質に関するフィードバックを教員間で行い、絶えず厳格な入学者を確保できるよう努める。 学生募集に関しても、多角的な手段を用いて継続的に実施していく。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	秋・春入試ともに適切な選抜が行われていることから、入学者の質は例年通り確保できていると言える。受験に至るまでの経路の分析も検討しており、この点も評価できる。
	改善のための提言	コース間での出願者数の偏りなど、入試の質を継続的に担保する上での課題に取り組むと同時に、入学後の大学院生の学び（学力）の状況、研究実践への適性などをモニタリングし、今後の入試選抜の改善・質向上につなげていくことが必要である。
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	当研究科では 2011 年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備している。規定に基づき適切に教員募集・任免・昇格を行うことを継続していく。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度(2022 年度)新たに着任した教員が 1 名おり、授業その他の業務のサポートを必要に応じて的確に行う。 あわせて、教員組織の質的向上を目標とし、各教員の、FD ミーティングや法政大学キャリアデザイン学会等における相互研鑽と、各種学会への参加、論文発表を通じた自己研鑽と成果発現に努める。 また、教員各自の修士論文指導・講義科目等における業務負担に関して効率化を推進する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 新たな教員へのサポートを執行部をはじめとして各教員が必要に応じて行う。 あわせて、教員全体の配置に関する課題を継続的にモニタリングし、必要に応じて対処を行う。 教員の研究成果に関しては、単純な数値目標を追及することは質の確保からみて適切ではなく、むしろ本研究科のカリキュラムに関連する幅広い研究を奨励し、モニタリングとして各教員の研究実績に関する情報を共有する。 また、実現可能な業務負担軽減の具体策や現状を検討・分析する。 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて教員各自の授業や修士論文指導における進捗状況を共有し、教授会内の FD 活動として、互いのサポートや、研鑽の機会を設けることができた。 法政大学キャリアデザイン学会主催の研究会や、年 3 回の修論合同指導の研究発表会を実施することによって、教員の互いの自己研鑽の機会を持つことができた。 いくつかの講義科目を学期の前半と後半に分割し、一人の教員が半期を担当する負担軽減の試みを開始した（兼任教員と分ける、あるいは専任二人で分けることにより）。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> 次年度以降も引き続き、FD 活動の機会を設ける。 教員の研究上の研鑽の機会も、これまで同様に儲ける。 次年度さらにまた一科目が、学期前半と後半に分ける試みを始める。
	質保証委員会による点検・評価	
所見	新任教員を含む全教員の教育活動が適切に行われている。研究活動に関しても、論文執筆や各学会での活動などが例年通りに行われている。長期履修制度に伴う問題の改善に関しては、執行部による本点検・評価の複数の項目にまたがって重点課題に位置づけられており、多面的に教員・教員組織の質向上が目指されている。	

	改善のための提言	研究科での学びおよび研究活動をより良いものにするための支援がなされることが望ましい。
	評価基準	学生支援
	中期目標	社会人院生が実務と研究のバランスをとっていく上でのアドバイスや、修士レベルの論文を書くのが初めての院生に対する、学術的調査研究の取り組み方・心構えの指導など、全教員がいっそうきめ細やかな対応を行っていく。
	年度目標	執行部が院生全員に直接連絡する機会も設けたが、これに関する適正な運用を継続する。また、電子メールだけでなく、google drive や zoom 等を通じた、オンラインでの院生間および院生教員間のコミュニケーションの可能性を探り、その実施を推進する。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・院生間および院生教員間における連絡の不備や学習上の不便を未然に防ぐ。やむを得ず問題が生じた場合は迅速に解決に努める。 ・従来通りの院生支援が提供されることを目指し、非対面であるがゆえの問題・トラブル・退学等の発生を防ぐ。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・院生同士の連絡や情報共有やコミュニケーションは例年通り円滑になされた。また院生間および院生教員間の連絡の不備や学習上の不便は特段生じなかった。 ・年3回の研究発表会を通して、院生の研究の進捗を把握し、必要に応じて悩みを共有する等、サポートすることができた。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き院生間および院生教員間の情報共有やコミュニケーションが円滑になされるよう努める。 ・年3回の研究発表会を継続し、院生へのサポートを行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	執行部を中心に学生対応および支援が出来ている。特にコロナ禍では学生間での交流の少なさからの不満も散見されたが、その点はほぼ解消されたと評価できる。
	改善のための提言	研究科での学びおよび研究活動をより良いものにするための支援がなされることが望ましい。特に学生間での（教員を交えない）自発的な勉強会や発表会の実施を促すなども有効と考えられる。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	キャリアデザイン学は理論に裏付けられた実学であり、高度な専門職を目指す院生の学習ニーズに応えるのと同時に、社会の人材ニーズにも対応していくことに力点を置く。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院修了者および教員の研究成果を学会、学術雑誌にて発信し、キャリアデザイン学の知見を広く社会に提供する。 ・また、大学院修了者による研究成果の実践への還元も推奨していく。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院修了者および教員により、研究成果を学会や学術雑誌で発表するのみならず、研究実績および実践への応用実績をウェブサイトやシンポジウム等で広報し、研究成果の社会還元・普及を促進する。 ・また、日本キャリアデザイン学会等関連学会において各自が貢献する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院修了者および教員により、研究成果を学会や学術雑誌、書籍等で発表することにより、本研究科の外に公表することができた。 ・日本キャリアデザイン学会において、本研究科教員が口頭発表や論文発表等を行うことにより、貢献することができた。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院修了者が研究成果を外部で発表できるよう、今後も努める。 ・教員は口頭発表や論文等をはじめとした様々な機会を通じて、これまで同様に社会貢献を行う。
	質保証委員会による点検・評価	

所見	社会貢献・連携として例年通り、学会活動等がなされていた。本研究科での研究活動の実践場面への応用や社会貢献がなされていた点が評価できる。学術データベースを用いた教員の研究活動の公開・公表も継続的に行われている。
改善のための提言	今後も教員および大学院生による研究・教育活動の一環として、学術集会などにおいて積極的な社会貢献・連携が行われることが望ましい。
<p>【重点目標】 学部と大学院の人員、負荷バランスについては、2022年度に方向性を決めて授業担当の専任・兼任分担の見直し等を2023年度に試行している。次年度以降の規模拡大への検討を引き続き行う。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 授業分担の見直しの試行についての検証を行い、次年度以降の施策の推進展開についての判断を行い、推進する場合にはその準備を進める。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 会議時間や大学院関連のイベント担当者数の削減の取り組みは維持してきた。さらにカリキュラム、授業、修論の評価・指導方法に関する見直しを行い、新たに兼任教員との分担を取り入れることで、専任教員の授業担当時間数を削減する改善策を2023年度から実施した。これにより学部と大学院の人員、負荷バランスの是正の一助となった。</p>	

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	プログラム制による体系的なカリキュラムを通じた専門性深化の継続と浸透。
年度目標	プログラム制やカリキュラムに関する大学院生の理解を一層深める。 また、適正な研究遂行のために、eLCoreを活用した研究倫理教育を徹底する。 さらに、「学生による授業改善アンケート」やM1・M2各期の役員とのコミュニケーション機会などを、授業の質の改善につなげる。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムや教員に関する情報提供をより充実させる。 研究倫理教育に関しては、次年度に演習を履修する修士1年生 eLCore 修了率を100%とする。 授業アンケート等で対処すべき課題や改善すべき事項を把握し、適宜、研究科内での情報共有と対応を行う。 M1・M2 役員とのコミュニケーション機会を設定する。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	より一層の教育研究指導方法の向上を図る。
年度目標	シラバス通りの授業実施の徹底と、教員1対大学院生1もしくは1対2による修士論文指導体制を原則として進める。 また、論文指導のより一層の充実に向けて、大学院生による発表会を開催する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 大学院生の研究計画に基づいて修士論文指導教員を適切に配置し、ミスマッチがないように指導体制を確立する。 修士論文発表会を年3回実施する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	修了生の学会発表、学会誌への投稿等の継続的促進を図る。 研究科修了生のレベルの維持・向上を図り、高度職業人養成機関としての本研究科の社会的地位の継続的な向上を図る。
年度目標	大学院生の学習状況を把握し、十分な学習成果を出せるよう支援する。その上で、修了生のうち優れた研究を行った者については学会での研究発表、学会誌への論文投稿等の促進を継続するとともに、修了生の研究成果の実務界への還元も推奨、促進する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 学会発表が可能な修了生に対して、指導教員を通じて学会加入及び発表の支援を実施する。 修了生の研究実績および実践への応用実績に関する情報を、研究科内で共有し、公表する。
評価基準	学生の受け入れ

中期目標	学生募集はホームページ、募集要項、進学相談会、大学院シンポジウム、研究計画書説明会など、あらゆる機会を通して入学志願者に詳しい入試情報を提供してきており、このような取り組みをいっそう充実させる。
年度目標	定員充足率は概ね維持しているものの、志願者数の減少、プログラム間の偏りが課題となってきた。研究科での教育や支援が大学院生にとって魅力あるものとなっているかを再検討するとともに、研究科の魅力を広く発信できるよう広報を強化していく。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・定員充足率 100%を目標とする。ただし、合格基準点を安易に下げることせず、書類選考・筆記試験・口述試験による研究遂行能力の評価に基づいて厳格に入学者を選抜し、質の高い教育の確保・担保に努める。 ・昨年度よりも志願者数が増加することを目指す。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	当研究科では 2011 年に大学院担当教員の基準を明確化し規定を整備している。規定に基づき適切に教員募集・任免・昇格を行うことを継続していく。 大学院の教員は学部も担当していることから、大学院と学部で必要な情報を共有しつつ、大学院での業務遂行を円滑に進めていく。
年度目標	学部と大学院の双方を担当する教員の円滑な業務遂行の観点から、学部と大学院の情報共有を一層強化する。その上で、2023 年度から実施している学部と大学院の人員、負荷バランスの見直し・試行を継続的にモニタリングし、必要に応じて対処を行う。 教員組織の質的向上を目標とし、各教員の、FD ミーティングや法政大学キャリアデザイン学会等における相互研鑽と、各種学会への参加、論文発表を通じた自己研鑽と成果発現に努める。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学部教授会に対して、大学院教授会の議事を資料として共有する。 ・学部執行部と大学院執行部による定例的なミーティングの機会を設定する。 ・教員の研究成果に関しては、単純な数値目標を迫及することは質の確保からみて適切ではなく、むしろ本研究科のカリキュラムに関連する幅広い研究を奨励し、モニタリングとして各教員の研究実績に関する情報を共有する。
評価基準	学生支援
中期目標	社会人院生が実務と研究のバランスをとっていく上でのアドバイスや、修士レベルの論文を書くのが初めての院生に対する、学術的調査研究の取り組み方・心構えの指導など、全教員がいっそうきめ細やかな対応を行っていく。
年度目標	執行部が院生全員に直接連絡する機会も設けたが、これに関する適正な運用を継続する。また、電子メールだけでなく、google drive や zoom 等を通じた、オンラインでの院生間および院生教員間のコミュニケーションの可能性を探り、その実施を推進する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・院生間および院生教員間における連絡の不備や学習上の不便を未然に防ぐ。やむを得ず問題が生じた場合は迅速に解決に努める。 ・従来通りの院生支援が提供されることを目指し、非対面であるがゆえの問題・トラブル・退学等の発生を防ぐ。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	キャリアデザイン学は理論に裏付けられた実学であり、高度な専門職を目指す院生の学習ニーズに応えるのと同時に、社会の人材ニーズにも対応していくことに力点を置く。
年度目標	修了生および教員の研究成果を学会、学術雑誌にて発信し、キャリアデザイン学の知見を広く社会に提供する。 また、研究成果の実践への応用を、修了生に推奨し、教員も実践していく。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・修了生および教員が、研究成果を学会や学術雑誌で発表する。 ・修了生および教員の、研究実績や実践への応用実績に関する情報を、研究科内で共有し、公表する。 ・日本キャリアデザイン学会等の関連学会に対して教員各自が貢献する。
<p>【重点目標】 研究科での教育や支援が大学院生にとって魅力あるものとなっているかを再検討するとともに、研究科の魅力を広く発信できるよう広報を強化していく。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p>	

志願者・入学者数の推移の把握、競合する大学院との比較、院生の声の把握等を通じて、教育や支援に関する現状を把握し、課題を整理する。また、研究科の魅力を適切に伝達できるよう、シンポジウムや進学相談会の運営を検討するとともに、広報活動を強化する。